

週間展望 (5/23～5/29)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之

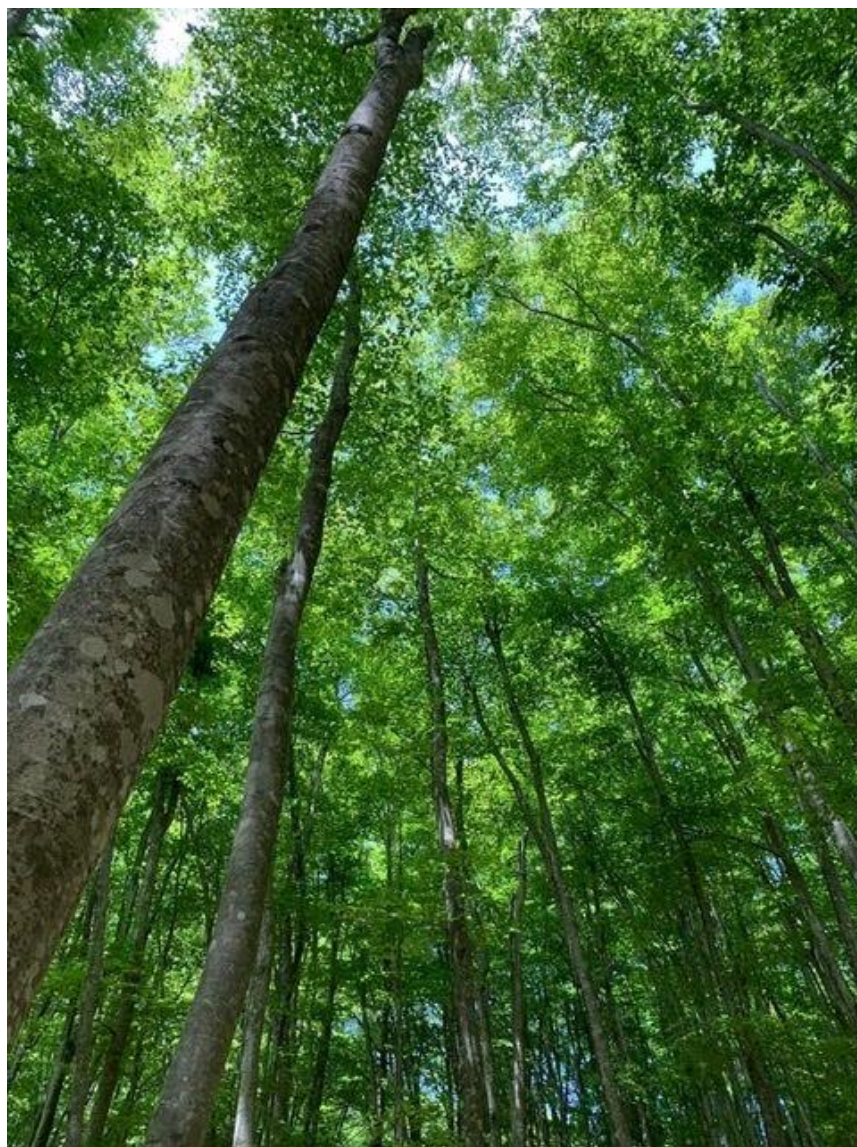


PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

目次 (2022/5/23号)

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定：米GDP・PCE・日米首脳会談が注目	・・・ P 3
■ 前週Review：米株年初来安値更新・リスク回避高まる	・・・ P 4
■ ドル円：株安受けた金利上昇一服で調整継続	・・・ P 5
■ 金：200日移動平均線の攻防戦	・・・ P 6
■ 白金：JMリポートでは、ロシア産供給示されず	・・・ P 7
■ ゴム：上海のロックダウンは6月に解除・正常化予定	・・・ P 8
■ 穀物：コーン作付遅れ挽回、小麦は修正安	・・・ P 9
■ 原油：三角もち合い上放れ	・・・ P 10
□ 騰落率（年間・月間・週間）	・・・ P 11
□ 日英CPI	・・・ P 11
□ ETF（金・白金）・EIA原油在庫	・・・ P 12
□ USDA生育進捗率・USDA作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・ゴム在庫（東京・上海）	・・・ P 13
□ CFTC建玉明細・・・ P 14～15 （ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金） （NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン）	

C X週間展望（5月23日～）

【週間スケジュール(5月23～29日)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
5月23日(月)	17:00	ドイツ	5月	IFO 業況指数 (新)	91.8	
	17:00	ドイツ	5月	IFO 現況指数 (新)	97.2	
	17:00	ドイツ	5月	IFO 期待指数 (新)	96.7	
5月24日(火)	16:30	ドイツ	5月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	54.6	
	16:30	ドイツ	5月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.6	
	16:30	ドイツ	5月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	54.3	
	17:00	ユーロ圏	5月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.5	
	17:00	ユーロ圏	5月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.7	
	17:00	ユーロ圏	5月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.8	
	17:30	英国	5月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.2	
	17:30	英国	5月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.8	
	17:30	英国	5月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.9	
	22:45	米国	5月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	56.0	
	22:45	米国	5月	S&P グローバル 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.2	
	22:45	米国	5月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.6	
5月25日(水)	23:00	米国	4月	新築住宅販売戸数	0.763 (百万)	0.758 (百万)
	15:00	ドイツ	Q1	国内総生産 (GDP) 改定値 (前期比) 季調値	0.2%	0.2%
	15:00	ドイツ	6月	Gfk 消費者信頼感指数	-26.5	
	19:00	英国	5月	CBI 小売売上高	-35	
	21:00	ドイツ	5月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前年比)		
	21:00	ドイツ	5月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)		
	21:30	米国	4月	耐久財受注	1.1%	0.5%
	納会	日本	---	ゴム(RSS3)先物2022年5月限納会日		
5月26日(木)	納会	日本	---	東京石油製品2022年5月限納会日		
	21:30	米国	Q1	国内総生産 (GDP) 改定値	-1.4%	-1.4%
	21:30	米国	Q1	コア 個人消費支出 (PCE) 価格 改定値	5.2%	
	21:30	米国	5月16日, 週次	新規失業保険申請件数		
	21:30	米国	5月9日, 週次	継続失業保険受給総数		
	23:00	米国	4月	中古住宅販売仮契約指数 (前月比)	-1.2%	
5月27日(金)	納会	日本	---	小豆2022年5月限納会日		
	8:30	日本	5月	東京都都区消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	2.5%	
	17:00	ユーロ圏	4月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)	6.3%	
	21:30	米国	4月	個人所得 (前月比)	0.5%	0.6%
	21:30	米国	4月	実質消費支出 (前月比)	0.2%	
	21:30	米国	4月	消費支出 (前月比) 季調値	1.1%	0.7%
	21:30	米国	4月	コア 個人消費支出 (PCE) 価格指数 (前月比)	0.3%	
	23:00	米国	5月	ミシガン大 消費者信頼感指数 確報値	59.1	59.1
5月28日(土)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
5月29日(日)						

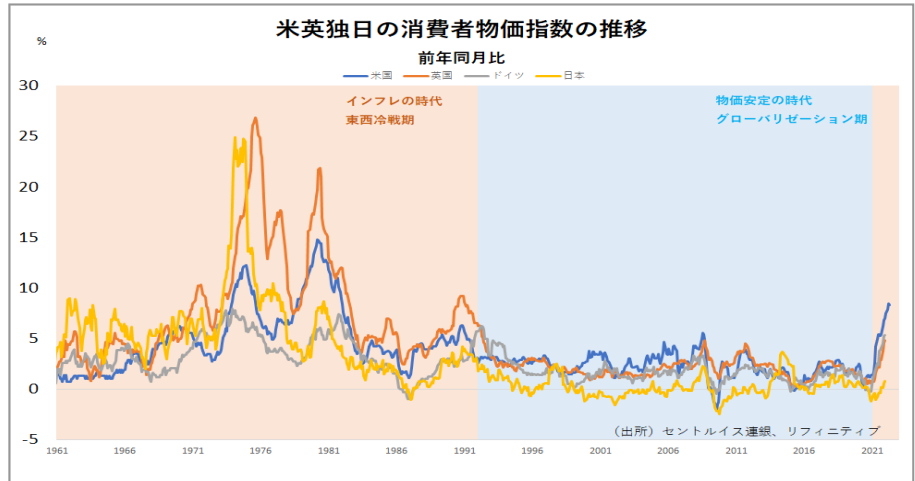
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

前週レビュー

～米株年初来安値更新・リスク回避高まる～

調査課

菊川 弘之



【米株年初来安値更新】

NYダウは、小売り大手のウォルマートやターゲットが市場予想を下回る決算を発表し、インフレによるコスト高が企業収益を圧迫するとの見方が強まり、年初来安値を更新。

インフレ高止まりに伴う「米大幅利上げ見通し」に加え、「量的引き締め(QT)」のダブルパンチが6月から始まることを嫌気し、10年国債利回りが3%を超えたことを手掛かりに、高PERのハイテク株などにも売りが広がった。ダウ平均は8週連続で、リフィニティブによると1932年以来90年ぶりの連続下落記録となる。

英国立統計局(ONS)が18日発表した4月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比9.0%上昇し、公式統計開始以来の高水準を記録した。

PCEは、落ち着いた動きになる傾向だが。。

物価上昇は英国だけでなく全世界共通だ。長引くコロナによる供給障害などで、インフレは始まっていたが、ロシアによるウクライナ侵攻で、これが加速している格好だ。ロシア・ウクライナ戦争は、プーチン政権が「ネオナチ」と呼ぶアゾフ大隊の拠点があったマリウポリが陥落したことで、フランスやトルコの仲介で徐々にロシア主導での「停戦交渉」へ移行しそうだ。だが、制裁合戦は継続し東西の分断は決定的で、グローバル化で国境の壁が低くなり、西側が安い労働力を自由に使えた時代は終焉するだろう。

前週には米CPI・PPIを受けて「インフレ鎮静化」が期待されたが、月末の米消費支出(PCE)が落ち着いた数字であったとしても、中長期的にはインフレの高止まり・変動の高い時代が訪れそうだ。夏場にかけての原油高・穀物高も波乱要因だ。

ナスダック日足終値の下落幅ランキング

	日付	始値	高値	安値	終値	当日終値-前日終値	下落率
1	2020/3/16	7392.73	7422.20	6882.86	6904.59	-970.28	-12.3%
2	2020/3/12	7398.58	7712.33	7194.67	7201.80	-750.25	-9.4%
3	2022/5/5	12787.52	12787.52	12183.56	12317.69	-647.16	-5.0%
4	2020/3/9	7957.93	8243.31	7943.16	7950.68	-624.94	-7.3%
5	2020/9/3	11861.90	11894.40	11361.36	11458.10	-598.34	-5.0%
6	2022/5/18	11790.68	11826.22	11381.69	11418.15	-566.37	-4.7%
7	2022/2/3	14045.83	14207.89	13851.75	13878.82	-538.73	-3.7%
8	2022/4/29	12710.42	12861.83	12315.74	12334.64	-536.89	-4.2%
9	2020/6/11	9791.24	9868.08	9491.31	9492.73	-527.62	-5.3%
10	2022/1/5	15547.16	15586.30	15095.18	15100.17	-522.54	-3.3%

※リフィニティブ

NYダウ日足終値の下落幅ランキング

	日付	始値	高値	安値	終値	当日終値-前日終値	下落率
1	2020/3/16	20917.53	21768.28	20116.46	20188.52	-2997.10	-12.9%
2	2020/3/12	22184.71	22837.95	21154.46	21200.62	-2352.60	-10.0%
3	2020/3/9	24992.36	24992.36	23706.07	23851.02	-2013.76	-7.8%
4	2020/6/11	26282.51	26294.08	25082.72	25128.17	-1861.82	-6.9%
5	2020/3/11	24604.63	24604.63	23328.32	23553.22	-1464.94	-5.9%
6	2020/3/18	20188.69	20469.33	18917.46	18986.92	-1338.46	-6.3%
7	2020/2/27	26526.00	26775.31	25752.82	25766.84	-1190.95	-4.4%
8	2018/2/5	25337.87	25520.53	23923.88	24345.75	-1175.21	-4.6%
9	2022/5/18	32468.67	32468.67	31393.95	31490.07	-1164.52	-3.6%
10	2022/5/5	33854.17	33854.17	32685.10	32997.97	-1063.09	-3.1%

※リフィニティブ

ドル円 (YEN)

～リターンムーブからの反落パターン～

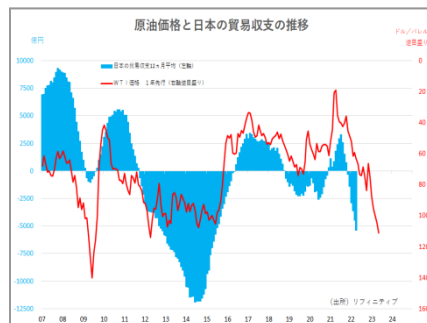
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

インフレ対策を優先させる米国に対して、異次元緩和を続ける日銀との金融政策格差は大きく米金利上昇に伴う日米の金利差拡大。日本の貿易赤字の常態化、国内企業の対外直接投資拡大、海外投資家の日本投資減少などが重なり、黒田シーリング(125円)を超えても強い牽制がなかったことから、円安ドル高が加速した。しかし5月1日に上ヒゲを形成後、調整入りとなっている。



2000年以降の年間レンジ平均の値幅を130円超で達成、一旦は、達成感も出ている。ネックライン(5/4安値:上記チャート緑点線)を再度、割り込み、リターンムーブからの反落パターンとなっている。4/27安値(赤点線)を割り込むと、変形の三尊天井や、20日間安値更新となり、テクニカル的な弱気感は増す。

今後のインバウンド(訪日外国人)需要は、相当、大きくなると思われ、既に解禁に向けた両替(外貨から円)も活発になっている模様。これも、円買い要因。

黒田シーリングが 支持線に変化

一目均衡表からの下値目標は、N=125.93円、V=125.2円などがカウント可能だが、夏場にかけて原油価格は上値リスクの高い時間帯が続くそうで、日本の貿易赤字拡大からの円売り圧力(上図下段)は続くようだ。黒田シーリングの125.5円水準を大きく割り込むような事態は想定し難い。ドル円は125-130円のレンジで次の材料を待つ展開と言うのが、現段階でのメインシナリオではないか？

4月の欧州中央銀行(ECB)理事会の議事要旨は、タカ派気味の内容。インフレ対応から、7月にも利上げに踏み切るとの見方が強まり、ユーロ買い・ドル売りが優勢だった。プーチン政権が「ネオナチ」と呼ぶアゾフ大隊の拠点があったマリウポリが陥落したことで、フランスやトルコの仲介で、徐々に「停戦交渉」へ移行していきながら、欧州通貨の下値も固まっていくなかかもしれない。

金 (GOLD)

～200日移動平均線回復～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY金(6月限)は、16日に心理的節目1800ドルをザラ場で割り込み、ストップロス巻き込んで続落したものの、相場格言「投げたら終い」となり、長い下ヒゲを形成。陽線引けとなった。

RSIは短期的な売られ過ぎ感を示唆しており、200日移動平均線を回復。



JPX金も、2021年12月安値～2022年4月高値までの上昇に対する38.2%押しと重なる心理的節目7500円水準で、一旦は底固めの様相。ただし、5/17安値を明確に割り込むと、三尊天井が完成となり、半値押し(7278円)～61.8%押し(7069円)が意識される。

トレンドフォロー型は売りから中立へ

NY金は、200日移動平均線を2日続けて回復したものの、ほぼ200日移動平均線上で、明確に上抜いてくるか否かが焦点。今週は、10日間・20日間高値が更に切り下がる時間帯となり、200日移動平均線～心理的節目1850ドルを維持なら、CTA(商品投資顧問)が多く採用しているトレンドフォロー型指標は、陰転から中立へ転じる。途転買いとなる水準も、日柄経過と共に1900ドル水準まで切り下がってくる。

一方、200日移動平均線を明確に回復できず、再度、割り込んだ場合は、改めて昨年末安値(1757.6ドル)～心理的節目1750ドルが意識されそうだが、昨年8月～9月には1700ドル前半は、買い拾われており、もう一段の安値があっても、1700ドル～1750ドル水準の下値支持感は強いだろう。

同水準割れにストップロスを置く資金配分、もしくは、2～3段階での分割買いができるなら、試し買いのタイミングに差し掛かっている。

株価と金相場は、本来、逆相関だが、リーマンショック時には、リスク商品総売りの流れの中で、株価の下落に伴う損失補填的な売りで、「株価下落・金下落」と一時的に順相関となった。ただし、損失補填的な売りが一巡後は、株価が続落したのに対して、金は「安全資産」として、他のリスク商品と比べて、最も早く・最も大きく切り返した。今回も、損失補填的な売りで出た金の安値は、「買い場」となるだろう。(5/19:市場分析レポート参照)

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金(Platinum)

～JMリポートでは、ロシア産供給示されず～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

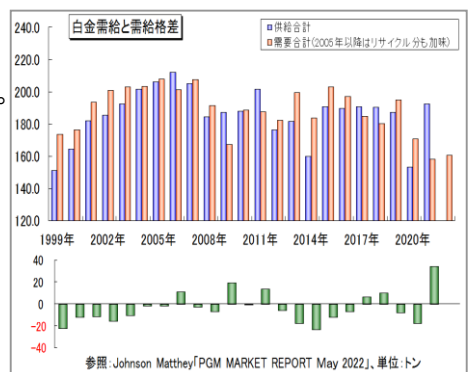
リースレートの急伸は、落ち着きを見せたものの、COMEX在庫の減少は継続している。(右上段・中段チャート参照)。

CFTC建玉明細(5/17現在)によると大口投機玉は、2203枚の買い越し。前週(1,363枚の買い越し)から拡大。売り越しは2週間(4/26・5/3の週)だけだった。(P14チャート参照)

インフレの高止まりの中、米連邦準備理事会(FRB)の大幅利上げ見通しに加え、「量的引き締め(QT)」のダブルパンチが6月から始まることを嫌気した株安や、世界的な電気自動車へのシフトに伴う排ガス触媒需要の低下観測から、白金相場の長期的な需給見通しは弱いものの、NY白金の900ドル以下では、長期上昇トレンドを形成している金相場との比較で、相対的な割安感が評価されている。900-1000ドルレンジで放れ待ち。

JMリポートによると、白金の世界需要は211.6トンと、前年比0.8%増える見通し。中国の環境規制強化でトラックなど軽油を使う大型車両向けの排ガス浄化触媒用需要が伸びるほか、ガソリン車向けの使用量も増えるとした。

供給は「(シェア1割を持つ)ロシア産がどれだけ売れるのか見通せない」としてロシア分の開示をせず。例年、需給格差が注目されるが、供給サイドのトータル数字が出ない異例の事態。(右図下段参照)



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴム(RSS3号)

～中国ロックダウン解除へ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

16日に中国国家统计局から発表された同国の4月の小売売上高は、前年比11.1%減少となり、事前予想(6.1%減)も大きく下回った。また、4月の鉱工業生産も前年比2.9%減少となり、3月の5.0%増から大幅に減少。新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした都市部のロックダウン(都市封鎖)が背景。(右図上段・中段)。



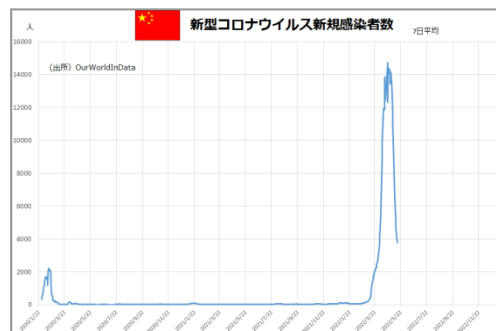
ロックダウン6月
解除見通し

中国主要都市でのロックダウン継続による経済活動停滞によってゴム需要が大幅に減退、ヘッジ売りが断続的に入ったことで上海ゴムは年初来安値を更新。年初高値を起点とした下降チャネルが継続しているが、16日、上海市は都市封鎖(ロックダウン)を6月に解除する方針を明らかにした事で、中国の景気減速懸念を背景とした売りは一巡。自律反発となっている。戻りの限度を試す流れ。



中国のコロナ感染者数は、落ち着きを見せており(右下段参照)、株価の更なる崩れがなければ、自律反発の動きが継続か？

全国生ゴム営業倉庫在庫は、4月30日現在11,994トン(前旬比71トン減)。4月下旬の入出庫は入庫728トン、出庫799トン。(P13参照)



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

穀物(大豆・コーン)

～コーン作付遅れ挽回、小麦は修正安～

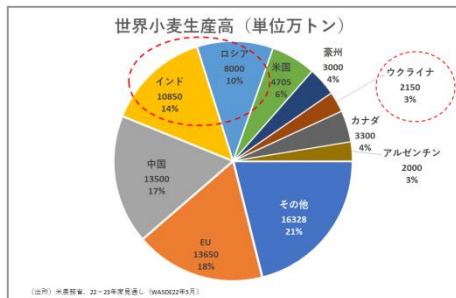
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

ロシア・ウクライナ戦争で両国からの穀物生産が懸念される中、世界有数の小麦生産量を誇るインドが13日、小麦の輸出を一時停止すると発表した。「自国や近隣国の食糧安全保障に対処するため」としている。インド商工省は13日付の通知で、「世界的な小麦価格の高騰は、インドや近隣国、途上国にとってリスクとなっている」と、禁輸の理由を説明している。



インド小麦輸出停止

インドでは今年3月の平均最高気温が観測史上最も暑く、小麦の収穫量見通しにも影響が出ている。これまでインドは小麦の多くを自国内で消費する一方、昨年度は700万トン超の小麦を近隣国などに輸出していた。

今年は小麦が穀物上昇のリード役となっているが、週末に小麦が大幅下落。ロシアの調査会社、SovEconが22/23年度の同国の小麦生産高見通しを過去最高の8860万トンと発表したことを嫌気した。

作付遅れ挽回

小麦と相関の高いコーンは、15日時点の作付け進捗率が49%となり、平年の67%を下回っているが、1週間で27%の進捗となった。5月後半に2週連続で25%前後の進捗となれば、5月末に予定通り作付けはほぼ完了となる。作付けが100%完了ならば、6月末に発表される作付け面積は、3月末に発表された作付け意向面積(8949万エーカー)から大幅な下方修正はないとみられる。

米国産地で作付けが進展したとの見方や、アルゼンチンが2021/22年度産の輸出枠を拡大するととの観測が出たこともコーンの圧迫材料。アルゼンチンは2021/22年度産コーンの輸出枠をこれまでの3000万トンから3500万トンに拡大する可能性。同国は世界第2位のコーン輸出国。

ただ作付けが完了しても生育期の米中西部の天候が高温乾燥になれば、作柄悪化となるリスクは残ったまま。ラニーニャ現象継続で北米の夏場天候は平年より高温乾燥になる可能性があり、土壌水分不足による生育不良、作柄悪化には警戒したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

原油(OIL)

～再度、三角もち合い上放れ試し～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

先週、「米政権がベネズエラの石油産業に関連した制裁緩和に動いている」との報道に手仕舞い売りが加速する場面もあったが、ロシアだけでなく、OPEC内では決められた増産(減産縮小)さえ達成できない国々も多く、仮にベネズエラの制裁が解除されたとしても、ロシア産をカバーできるほどの絶対量にはならない。



米エネルギー情報局(EIA)週報でガソリン在庫は、ドライブシーズン入り前の時期にもかかわらず、過去5年のレンジ下限を下回っている(P12参照)。原油は3月高値を上抜けていないが、ガソリン価格は高値更新中だ。(上右図)。世論調査では中間選挙に向けて、米国民の関心は、ウクライナ問題よりも、圧倒的にインフレ問題に向いている。

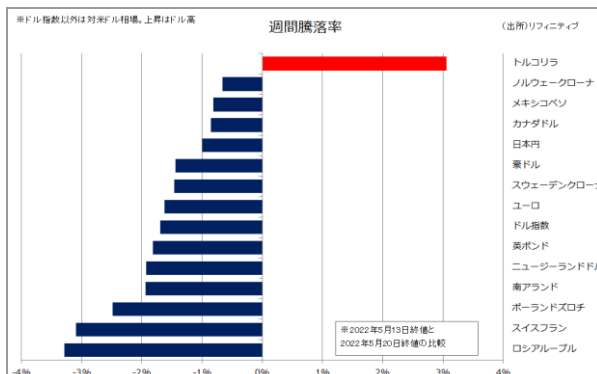
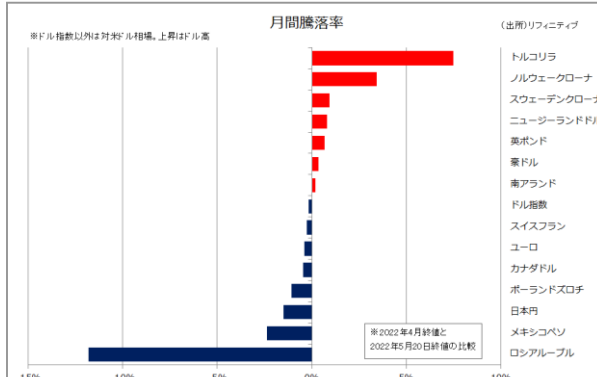
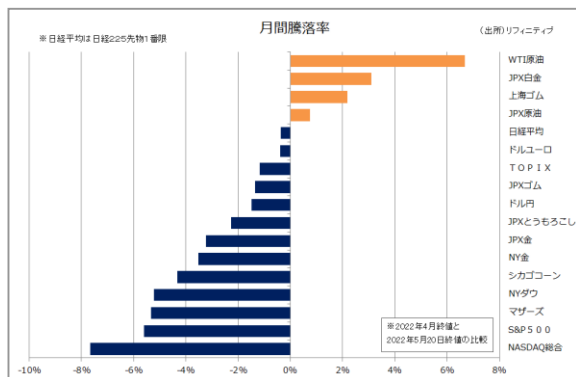
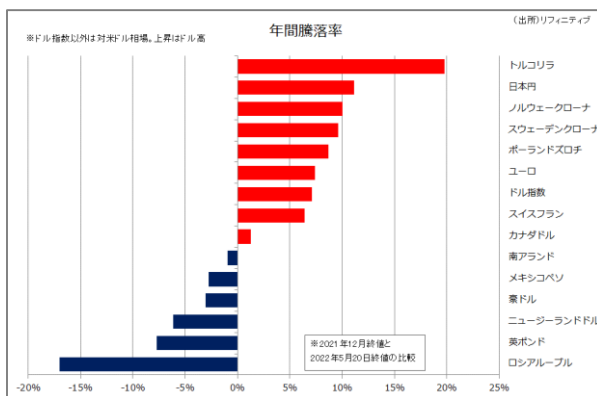
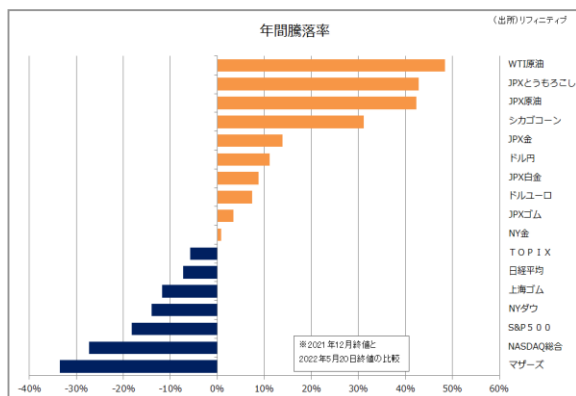
米戦略備蓄在庫も過去最低水準で、今後の放出が限定的になると、投機筋に見透かされる可能性もあろう。株価の暴落等がなければ、100ドルが地相場となるような高値圏での推移が続きそうだ。まずは120ドルを試す流れ。

上海市は6月に新型コロナ感染拡大に伴う都市封鎖を解除する方針を示している。中国人民銀行(中央銀行)は20日、住宅ローン向けの指標金利の引き下げを発表。上海の都市封鎖が緩和され、石油需要が回復すると期待されていることも相場押し上げ要因。一方、安値から切り返して引けたものの、主要な米株価指数が下値探りとなっていることは重し。欧州連合(EU)がロシア産石油の禁輸に向けた取り組みを続けている中で、イタリアがロシアからの原油輸入を拡大していることも弱気要因。今月、ロシアはイタリアに日量45万バレルの原油を輸出しており、2月の4倍超の水準となっている。

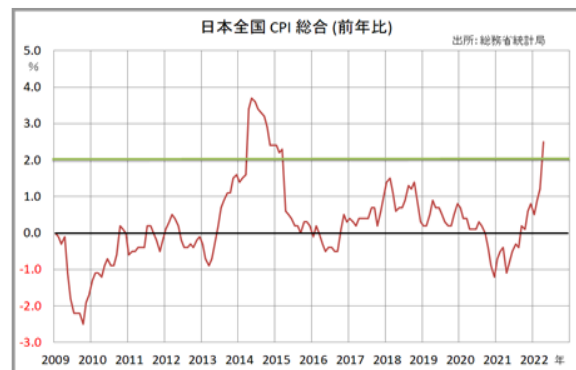
米CPI・PPIを受けて「インフレ鎮静化」が期待されたが、米消費支出(PCE)が落ち着いた数字が出たとしても、中長期的にはインフレの高止まり・変動の高い時代が訪れそうだ。東西の分断は決定的で、グローバル化で国境の壁が低くなり、西側が安い労働力を自由に使えた時代は終焉するだろう。

ガソリン主導の上昇

【騰落率(年間・月間・週間)】



【消費者物価指数(日本・英国)】

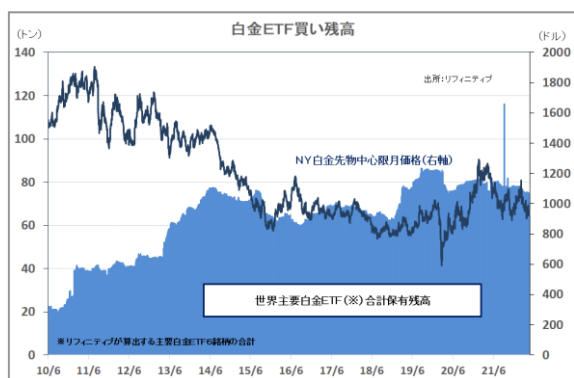


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

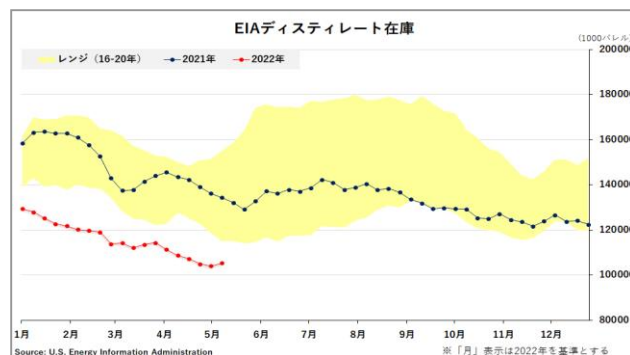
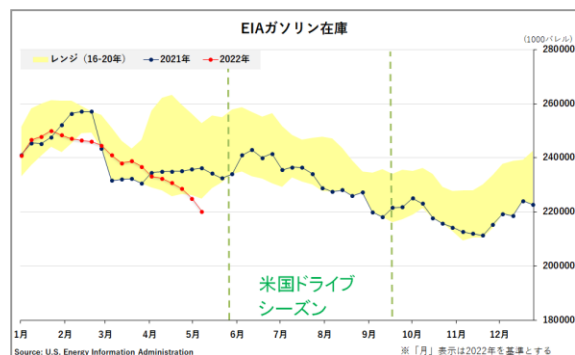
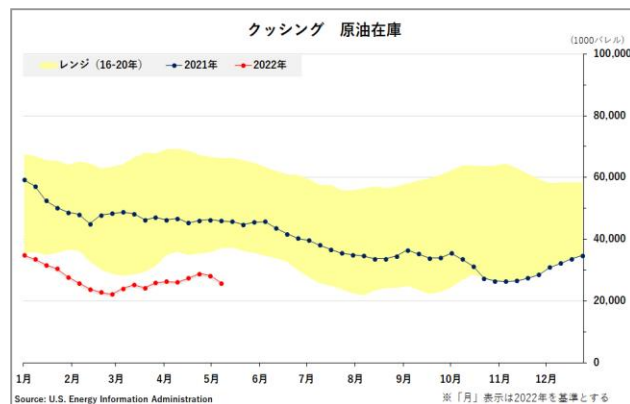
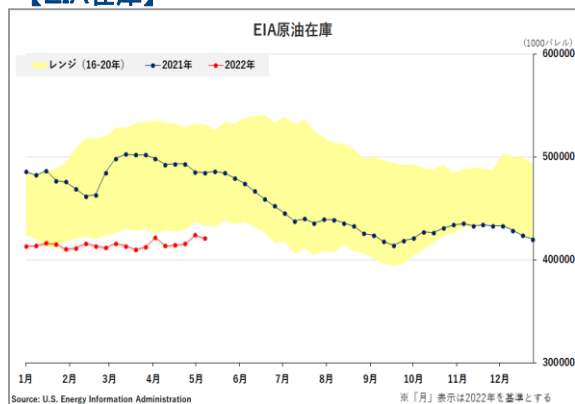


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/5/20	1063.43	+7.25
2022/5/19	1056.18	+6.97
2022/5/18	1049.21	±0
2022/5/17	1049.21	-4.07
2022/5/16	1053.28	-2.61
2022/5/13	1055.89	-4.93
2022/5/12	1060.82	-5.80



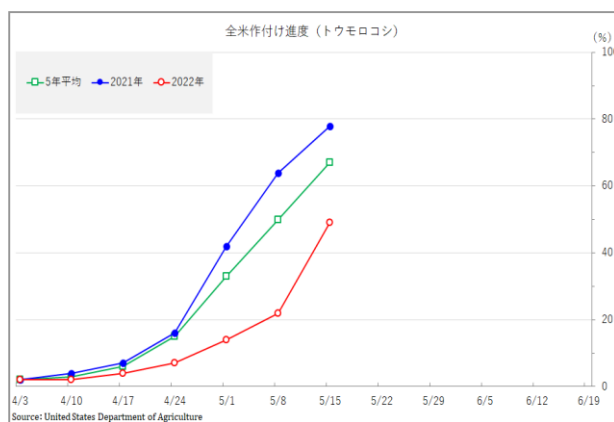
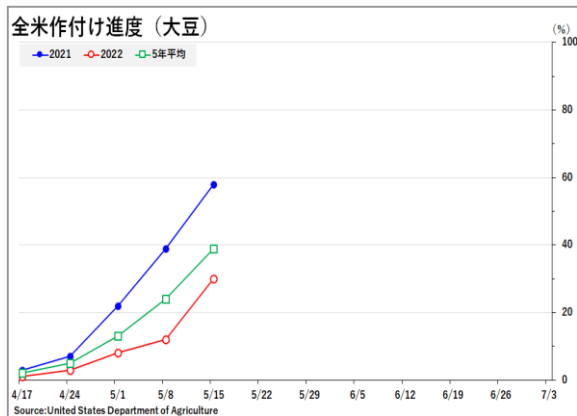
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/5/20	74,879.25	±0
2022/5/19	74,879.25	-0.16
2022/5/18	74,879.41	-90.20
2022/5/17	74,969.61	+10969.08
2022/5/16	64,000.52	-10969.61
2022/5/13	74,970.13	-22.52
2022/5/12	74,992.65	-0.16

【EIA在庫】



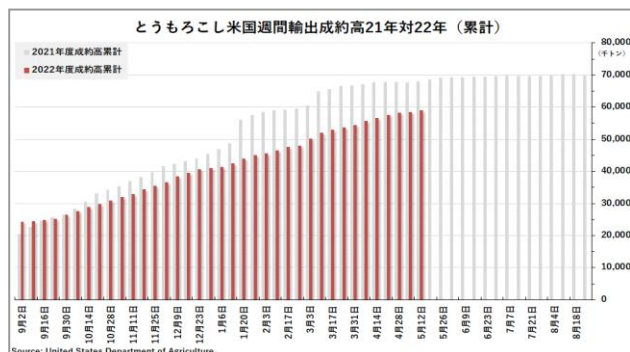
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【USDA生育進捗(大豆・コーン)】

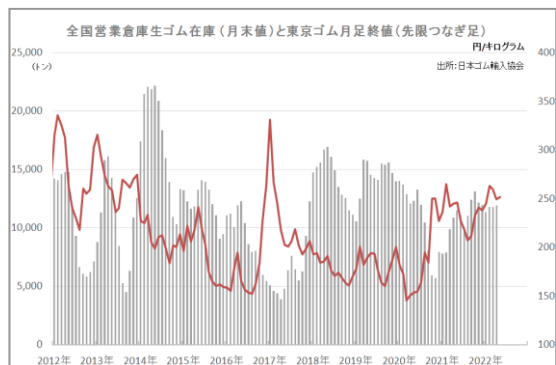


5月下旬～発表予定

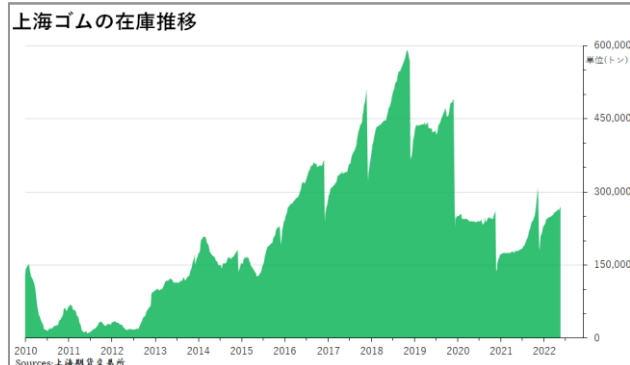
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【ゴム営業倉庫在庫(日本)】

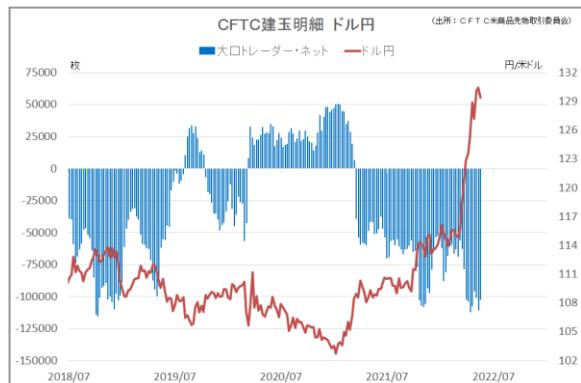


【ゴム在庫(上海)】

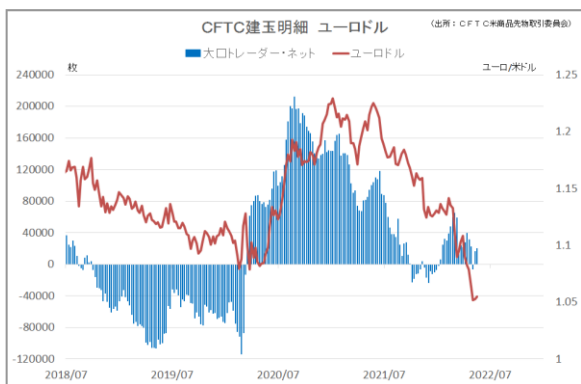


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

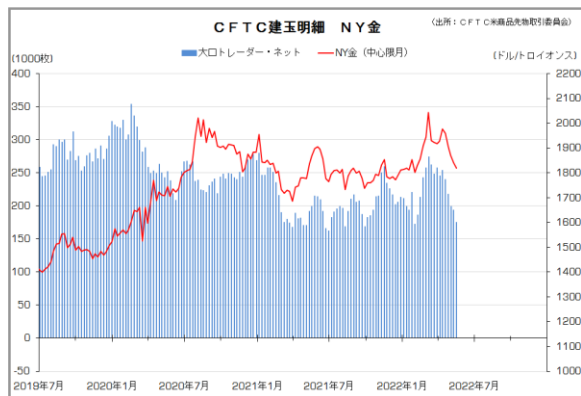
【CFTC建玉明細】



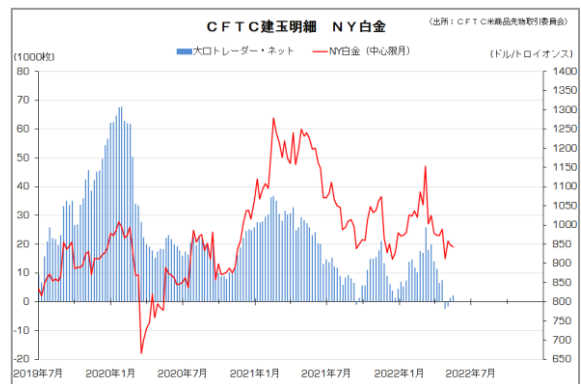
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	12,723	119,910	-107,187	128.9
2022/4/26	14,269	109,804	-95,535	127.22
2022/5/3	18,585	119,379	-100,794	130.1
2022/5/10	11,196	121,650	-110,454	130.43
2022/5/17	12,113	114,422	-102,309	129.39
前週比	917	-7,228	8,145	-1.04



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	221,003	189,702	31,301	1.0786
2022/4/26	222,993	200,792	22,201	1.0636
2022/5/3	208,449	214,827	-6,378	1.0520
2022/5/10	228,230	211,701	16,529	1.0527
2022/5/17	230,770	210,431	20,339	1.0547
前週比	2,540	-1,270	3,810	0.0020



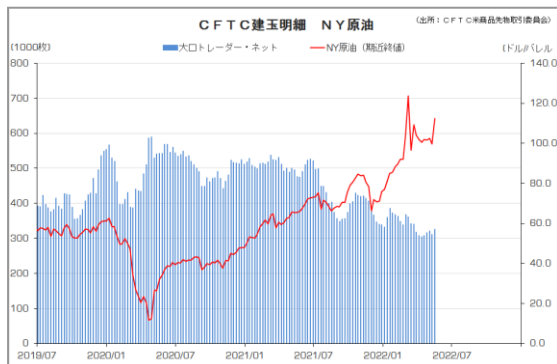
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	330,745	90,988	239,757	1959
2022/4/26	310,511	92,487	218,024	1904.1
2022/5/3	293,439	94,271	199,168	1870.6
2022/5/10	288,947	95,632	193,315	1841
2022/5/17	283,011	107,651	175,360	1818.9
前週比	-5,936	12,019	-17,955	-22.1



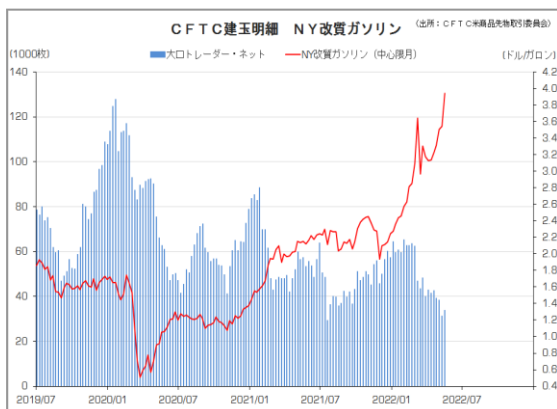
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	28,293	20,756	7,537	988.7
2022/4/26	28,121	30,478	-2,357	912.1
2022/5/3	29,516	31,057	-1,541	958.6
2022/5/10	28,774	27,411	1,363	947.2
2022/5/17	28,253	26,050	2,203	943.4
前週比	-521	-1,361	840	-3.8

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

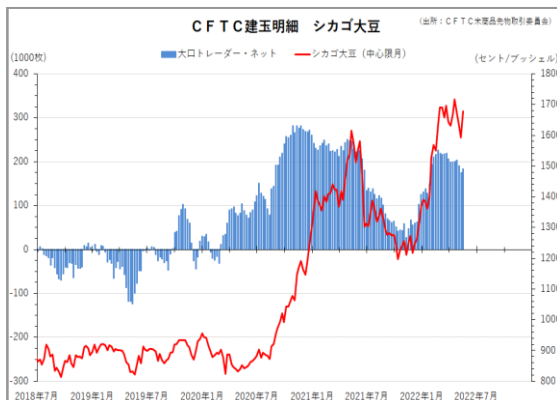
【CFTC建玉明細】



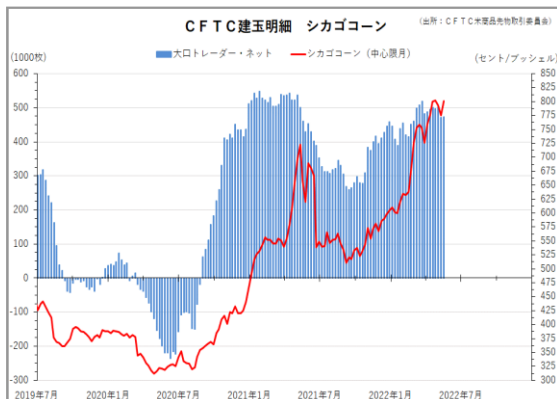
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	411,622	103,925	307,697	102.05
2022/4/26	413,638	97,575	316,063	101.70
2022/5/3	419,692	97,991	321,701	102.41
2022/5/10	415,170	104,367	310,803	99.76
2022/5/17	416,190	90,553	325,637	112.4
前週比	1,020	-13,814	14,834	12.64



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	80,977	38,392	42,585	3.2289
2022/4/26	78,794	39,553	39,241	3.311
2022/5/3	79,017	40,636	38,381	3.5012
2022/5/10	73,929	42,551	31,378	3.5415
2022/5/17	75,744	41,946	33,798	3.9417
前週比	1,815	-605	2,420	0.4002



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	250,566	50,468	200,098	1716.50
2022/4/26	249,273	45,467	203,806	1671.75
2022/5/3	239,355	48,953	190,402	1630.50
2022/5/10	225,260	50,652	174,608	1592.25
2022/5/17	231,911	48,264	183,647	1678.00
前週比	6,651	-2,388	9,039	85.75



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/19	586,638	86,026	500,612	799.75
2022/4/26	575,082	77,457	497,625	801.50
2022/5/3	589,856	87,991	501,865	793.00
2022/5/10	573,327	102,419	470,908	775.25
2022/5/17	589,352	115,609	473,743	800.75
前週比	16,025	13,190	2,835	25.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。